

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西通り)

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成25年10月 7日	開設年月日	平成18年 12月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の思い、願いを一つでも多く叶えることが出来る様ケアを心掛けています。自立支援を大切に、出来ることは何でもやっていただき、自信を持って頂ける様、待つ姿勢を大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本人の意向が大切にされており、介護計画も本人の視点に立った計画が具体的に作成され、意向に沿った形でのケアが目指されている。食事も利用者の意見を中心に献立も決められ、事業所の畑で取れる旬の食材も利用し、事業所での生活が豊かになるような取り組みがなされている。避難訓練も実際に必要となる時の事を考え、利用者も職員も十分対応できるように、毎月訓練するなど、安心出来る事業所作りに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 25年10月24日	評価結果決定日	平成25年12月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づいて、利用者とそのご家族に対し常に最高のサービスを提供できる様心掛けている。	事業所の理念を基に年の目標として「利用者の思い意向……」を掲げて、日々のケアで確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣・地区の方々に運営推進会議に出席して頂き、地域の行事に参加させていただいたり、畑、散歩を通じ顔見知りになってもらうよう努力している	無断外出の方がいて地域の方に保護され、連絡・・その後事業所の存在を知って頂く様にパンフレットを作り地域に配布する。地域に知って頂くきっかけができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あすなる南陽を知ってもらうため、こんな施設ですという内容の用紙を回覧板で見てもらいました。認知症の方でも安心して暮らしていることをオープンにするため、運営推進会参加者とのお茶会も実施した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見、直す箇所を1つ1つ解決していき、地区民生委員、地区長さんに協力してもらっています。	民生委員(南、西地区各1人)老人会、地区長、家族会、事業所、市職員の参加で2ヶ月1回実施されている。参加者は多いが内容は事業所の報告が中心である。	会議の内容は報告だけでなく、事業所の課題や参加者への依頼事項等に関しての話し合いを行う等、会議を更に有効に活用することを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、地域包括センターと密に連絡をとり、分からないことを教えてもらって他事業所等と連携が迅速にとれるように取り組んでいます。	市の職員は運営推進会議にも出席されており、関係性は出来ており、不明な時には積極的に聞く体制を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	制止を求める言葉、身体拘束、玄関に鍵をかけることはしていません。利用者が不穏状態でも、利用者の意思で自由に行動できるように声かけ、誘導、気分転換を工夫しています。	身体的、言葉による拘束は勉強会等を通じ職員に教育はなされている。更に食後の服薬や食事の残しの始末等に対する声掛け利用者の意思を尊重する工夫が望まれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が起こりそうな雰囲気を察したり、自信がない場合は早く申告するようにしている。スタッフにストレスがたまっていると気が付いたら、声がけし悩みを聞くことに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の自立支援のことは勉強会等で行っている。身寄りのない独居世帯のお年寄りの身元引受人に不正に利用者のお金を使用する者がいる場合はすぐに行政と相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時、不安がないよう、後で違いがないよう細心の注意を払って細かく説明し、同意を頂けるようにつとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者、ご家族に要望を聞いている。防災時の外部への連携はすぐに実践した。看板もとりました。	年1回家族会、いも煮会、運営推進会議の時に家族からの意見を頂き、指摘事項に関しての改善改善が行われている。	更に、活発な意見をいただく為にも、以前取り組まれていた家族へのアンケートの実施を継続的に進めていくことが望まれる。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目安箱を設置し、カンファレンスで管理者が職員の意見・提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は職員の家庭の事情を考え希望休みも取り入れ安心して働ける状況を作るように努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はもちろん外部の研修に積極的に行ってもらい、日々レベルアップを心掛けている。	法人として介護塾があり、今年度はホスピタリティーに関する研修が主体となっている。GHとしての基本的な研修も取り組まれていくことが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のGH協議会の活動や研修会に参加し他事業者の方々と交流の場を作れるように情報交換やメールのやり取りなどに取り組んでいる	GH協議会に参加して同業者と交流し情報交換し、また交換実習(2名)の受け入れをしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談、施設見学、実調の際安心して入所して頂ける様に、本人の不安が少しでも和らぐよう心配事や要望を具体的に聞き取る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたりスムーズに進められるよう今までの流れを大枠で把握し、どのような状態が望ましいか確認し不安のないよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活習慣が継続できる様、努力している。ある程度実調でニーズを把握しさらに何を求めているのか観察する眼を養うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意向を尊重し、かつての経験や昔の風習など聞いて生活に取り入れたりしている。利用者の意見を優先し同じ目線で対応するように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も協力者の一員として通院や外出等の支援もお願いしている。夏祭りや芋煮会の行事に参加をお願いしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や友人が自由に面会出来る様に開放している。施設から近いところなら職員と一緒に出掛けたり友人に電話し行き来が出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と落ち着いて過ごせる様場所を提供したり職員も中に入ったり良い関係づくりが出来る様配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所になった方にはお見舞いや面会にうかがったり、今後の対応について相談された時は家族の家族の気持ちに添い適切なアプローチ、支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の意向確認や日々の会話の中で本人の希望を出るだけ取り入れられるようにしている。困難な場合は今までの生活歴、習慣、価値観をみんなと話し合っどれが1番いいのか最善を考えている。	日々の生活の中で利用者の、意向を聞く体制が取られている。職員が利用者に積極的に声掛けしている様子もうかがえた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報収集、これまでの記録を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。(生活歴記入をご家族の同意をとり、書いて頂きました)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、バイタルチェック、排泄パターン、はもちろん日々の行動と会話から精神的に落ち着いているか、どこまで1人で出来るかを現状把握できる様に気を付けている。申し送りを徹底し皆で新しい情報を共有できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の個人カンファレンス、他担当者会議、3か月に1回のモニタリングの他、居室担当者と一緒に介護計画を検討し1か月後の目標のアイデアを出してもらい実行している。家族とも、随時連絡をとっている。	介護計画は目標が具体的であり、モニタリングも定期的に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を日々観察し、気づき、うまくいったこと、変わってきた状態に対しての工夫を記録し、1か月に1回、介護計画の見直しをし、変わった人は変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に、馴染みの商店や町内会に参加したり、お祭りを見に行ったり今までの生活を忘れず継続に努めている。通院時、外出するときは利用者個人的に行きたい場所、馴染みの場所にドライブしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が選んだ主治医に通院または往診してもらい施設での身体状況を担当者に受診報告書を書いてもらい診てもらっている。急変した場合は電話で状況を報告し迅速に対応できる様指示をもらっている。	通院は基本は家族対応で、担当者が身体状況に関しての受診報告書を記入し持参して頂いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週1回訪問し、介護職員と申し送りをして1人1人お話してもらっている。往診時は同行してもらい医師と介護職員の情報の伝達指示をスムーズにできるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ情報を伝え、入院中定期的にお見舞いに行き本人の状況把握と医師、看護師と話をし、情報交換をしている。協力医療機関と事前に連絡を取り合い、入院になった場合本人、家族が不安なく治療に専念できる環境を作る為、主治医からの紹介状を書いてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、意向を確認している。看取りについて、現段階ではあすなろではまだ本格的な体制はとられていないが、徐々に研修や施設看護師、主治医との連携をとるように進めている。	重度化した時の指針、確認書は作成され利用者、家族に説明している。法人としては現在職員のホスピタリティ研修がなされていて、家族との話し合いや24H対応の主治医等の話し合いが課題になっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を受講し、その他、不定期ではあるが、急変時対応について施設看護師による講習を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の避難訓練、年2回の災害訓練で消防所の意見を頂き、全職員が対応できる様努めている。	年2回の災害訓練と同時に、4月からは毎月避難訓練を実施し、避難時間の短縮が成果として表れ、緊急時への対応力の向上が図られた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に各利用者に合わせた声かけや対応に気を付け接している。	カンファレンスの時にプライバシーについての話し合いがなされ、利用者への対応に活かされるようにしている。職員への研修のテーマとして定期的に取り上げていくことも望まれる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を出すことが出来る様、個別に話を聞き自己決定出来る様に待つ姿勢を大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを優先しその方に合わせた支援が出来る様に努力しているが、まだまだ足りない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方にも、どの服が着たいか聞き、出来るだけ好みの服を着ておしゃれが出来る様努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みを把握し、一緒に買い物に行き、下ごしらえ、味付け、調理、配膳準備、片づけ、洗物まで手伝っていただいている。	食事のメニューは職員と利用者が話し合い、決めている。食材の買い物には職員と利用者が同行し行われている。盛り付け、下膳、茶碗拭きは出来る利用者は職員と一緒にいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック、体重、排便等状態の把握は常に心掛けている。水分は居室に、ペットボトルや水筒を準備し、お部屋でもこまめに補給できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実地している。本人の状況により介助の割合は異なるが出来ることは手を出さずに待つ姿勢で臨んでいる。義歯の方は夜間ポリデント使用。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に多少の失敗があっても布パンツの下着で対応している。夜間ポータブルトイレを使用している方には訪室し見守りし、なるべく失敗しないように定期的に誘導したりしている。	一部の利用者を除き、声掛けで誘導を行い、極力布パンでの対応が行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、繊維質を多く摂ったり、ヨーグルトを午前中のおやつにしたりしている。個々に応じ主治医に相談しながら下剤を服用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回のローテーションを組んで、午後から入浴している。入りたいと希望があったとき対応しているが、必ず希望通りにいかないこともある。	週2回が基本で午後2:00～ローテーションで実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣や気分、体調に合わせて、自由に休息がとれるようにしている。夜間中々眠れない方には一緒にテレビを見たり牛乳を飲んだりして落ち着いてから休んでもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基にしながら複数のスタッフと間違いないよう声がけして確認している。飲み込みまで確認している。疑問があれば主治医に相談している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、昔得意だったことを聞いたり、話してもらい、施設に入ったから出来ないと思ってあきらめたことを聞きだし畑や絵画、料理、旅行、温泉、買い物等出来るだけ願いを叶えられるよう努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に知り合いがいる方に個別でお茶のみ出来る様送り迎えている。また毎月の行事に季節ごとのバスハイクを組み込みドライブしている。個別にドライブ実地。晴れた日には散歩し近隣の方に顔見知りになってもらいました。家族にもご協力してもらい、たまに外出しています。	天気のいい日は近くを散歩したり、3～4人で以前住んでいた家に行ったり、利用者の希望に合わせて外出されている。外食、花見、菊人形まつり等に出かけている。美容院は通いなれた所を利用している利用者もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金は保管管理されているが、一緒に買い物に出かけて、欲しいものを買っている。必要時は適当な金額を家族の用意を得て使っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親せき、友人に電話は自由にしてもらっている。家族からもかけてもらい精神の安定を図っている。遠方にいる友人との手紙のやり取りを支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の灯り、空調の管理に常に気を使っており、心地よく過ごしてもらうよう配慮している。夏はグリーンカーテンを作り、冬は床暖房やこたつを用意し季節を感じ生活できる環境づくりに取り組んでいる最中です。	季節の花（菊、ばら）が沢山活かされていて、居心地のいい環境が作られている。所どころにソファが置かれていて、テレビの前にも利用者同志で連続ドラマを観る等ゆったりと居心地よく工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに目隠しとなるソファやすだれを垂らし、広い空間にサロンの空間を1つ作っている。テーブルの位置を時々変え、気分転換や気の合う人と楽しく過ごせるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や寝具衣類タンス、ケース等自宅で使用していた物を持ってきてもらい馴染みの風景でお部屋で気持ち良く過ごせる様自由に行っている。家族に協力してもらっている。	テレビ等も持ち込まれていて各人その人らしい部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しを低くしたり、茶碗洗い、野菜の下ごしらえ、調理が無理ない姿勢で出来るようスタッフが準備して頂いている。作業は「待つ姿勢」を大切にし、出来ることをゆっくり最後までしてもらう。出来ることを取らないように努めている。		